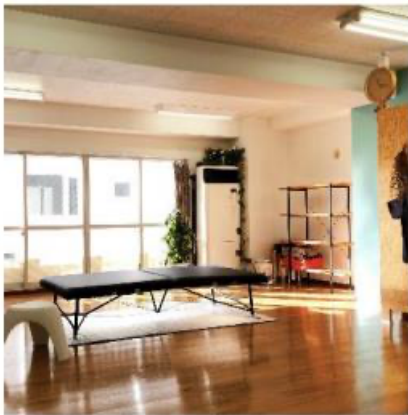


文化と医療の接点 自己探求と理学療法士の挑戦

白濱芳幸氏との出会いは、息子がヘルニアを診断され外科的手術をすすめられたことがきっかけである。2017年、白濱氏は、理学療法士として病院に勤め、はっきりとした口調、丁寧な物腰でありながら、発言のひとつひとつに多くの意味を含むコミュニケーションをとる点が印象的である。

カウンセリングをする時は、患者に自己の体との対話を求めているように感じた。その日は、仕事を終えて施術ベッドを片手に駆けつけ、それは、目の前で行われた。ヘルニアという疾病から脱皮したように、痛みと筋肉の違和感から解放され、本人も何が起きたのか、わからない様子であった。この出会いから、私は、白濱氏の医療従事者でありながら、様々な文化的な思想を持ち、「多元的ヘルスケア」(セシル・G・ヘルマン,2018)を実践している活動に興味持ちヨガスタジオに通うことになる。

「YogaThera」は、北海道札幌市西区琴似にある。衛生的で整理整頓された暖かく居心地がよい空間が広がるスタジオである。参加者は、理学療法士、経営者やヨガのインストラクター、医師、看護師が多いことが特徴である。



出典:YogaThera <https://yoga-thera.com/>

現在取り組んでいる活動として、ヨガスタジオでの活動は、大きくわけて3つである。1つ目は、プライベートレッスンで整体のようなものであるが、個々の悩みに応じるアプローチである。専門医療で外科的な手術しかないと言われ、見てもらいたいと紹介で来る方がほとんどで、私もその一人である。



プライベートレッスン（個別整体）

東洋医学的体質評価、栄養カウンセリングなど お悩み・症状に合わせての個人レッスン

出典：YogaThera <https://yoga-thera.com/>

2つ目のグループレッスンでは、積極的にカラダと向き合う独自のヨガを行う。カラダの違和感は、どこから来ているのか、カラダとの対話を重視して、脳の使い方を知るワークなど様々なボディワークがある。

3つ目は、専門家の育成と公認講座で教育を行う。理学療法士や作業療法士、ヨガインストラクターなどで活動する人に対して、医療の現場では学べない技術と考え方を教えている。活動の目的は、カラダ本来の機能を引き出すことにある。痛みを0に出来なくても、困らない程度に改善し、病気や年齢、性別に関係なくできることをひたすら行うと語る。目標は、患者さんがより改善の方向へ向かうよう、学習意欲を持ちながら、自己を高め体の違和感や関節をみることである。たとえば、女性特有の生理痛、便秘や産前産後の乳児の悩み事や発育の遅れ等を見ることのできる医療従事者を増やしたいと考えている。

これらの活動は、独自の視点から先を見据え、20代から地道に取り組んでいるという。さらに、医療システムで補えない部分を、セルフケアの観点で、「専門職セクター」「民俗セクター」「民間セクター」のメリットとデメリットを行き来し、医療では、できそうでできないことを接点として繋げている。「多元的ヘルスケア」（セシル・G・ヘルマン,2018.p82-86)の実践である。



出典：YogaThera ボディワーク YRB
<https://yoga-thera.com/news/4669/>



出典：Yogathera 合同会社イレスカムイ代表
コンディショニングスタジオヨガセラ白濱芳幸
<https://yoga-thera.com/pickup/8660/>

これまでの活動の歴史と現在までの経緯として、白濱氏は、2005年から理学療法士として7年間学ぶ。原点は、自身の右の股関節の大きな痛みを抱えたことが始まりである。これから、医療従事者となる矢先に、この痛みを封じるだけでどうにかなるのか、これで本当にいいのか？という疑問が湧き、同時に問題提起が起こったという。

この時の状況を「今のアプローチで改善しないことは、身に染みて理解していた」と語る。つまり、自分のカラダを通して医療で行える限界を捉えていたのである。そこで、アプローチを役割として考え、様々にある役割を否定的な目ではなく、肯定的に捉え、西洋医学の役割も含め、融合してうまく利用しようと考えたのである。2017年からは、自身の体調と股関節を根本から改善したいと、精神面で奥深く哲学などで最も興味があったヨガを様々な場所へ行き学び始める。その結果、日本人にとって何が良いか突き詰め、東洋医学にいきつく。

東洋医学は、すべては自然の一部で、四季のような移り変りは、カラダにもあり、良い時も悪い時もあり、ゆらぎがあり、ずっと変化するものと捉えた。しかし、固執せず、西洋医学も使い、陰陽として、各分野の得意と不得意を理解して幅広いアプローチを叶えたいと考えた。白濱氏は、自身の経験で感じた、「心と体の関係は、病院では、細かくできる環境がない」と感じ、文化と医療の接点の融合を決断する。これらに挑戦するために2018年に退職し14年が経ち現在に至っている。

「合同会社イレスカムイ」(合同会社イレスカムイ,2022)は、アイヌ語で「火の神様」「育成の神様」という意味である。物事を進めるのは、火の神様の力をもらい、行動を焚きつける力と、熱い思いに、心を打たれ熱い気持ちに、心が動かされるという意味が込められている。活動で大切だと考えていることとして、人は、良いことだと思っても、行動に移せない人が多いと語る。白濱氏は、自分の体を通して実感した気づきを、熱い熱量を持って実行する使命を感じていた。

また、理学療法士をはじめ、学ぶ楽しさを伝えることも使命であるという。そのためにも、患者との信頼関係をつくる技術や、体の動かし方など、治療の効果を出せる最低限の技術を教えたい。改善できないことを、改善する人が、次々に増えたならば、お互いに生活の満足度は高く健康で幸せになる。さらに、熟考して体が変化することは、自分の可能性を知る嬉しいことであり、豊かさの根本に繋がる。白濱氏の思いは、事業全体に込められている。



出典 Yogathera 第1回ヨガセラフェス後期
<https://yoga-thera.com/pickup/9041/>

このような、文化と医療の接点が必要な分野は、今後は、さらに必要となり注目される だろう。なぜならば、西洋医学では解決できない問題、そして、目に見えにくい内側のある心の問題を、なかったように隠すのではなく、根本にある複合的な要因を探究し、その 根本を見直すことが必要な時代である。現在までは、人生において合理化や最適化を目指してきた生活とは、異なる、ヒトを生物として、捉えどのように生活することが最も望ましいのか、何がヒトに起こっているのか、心の問題も含めてもう一度見直す時代を迎えているのではないだろうか。白濱氏は、これを率先して実践している、とても貴重な医療従事者である。実践する指導者も治療者も、事実として少ないことは、問題点である。今後も「多元的ヘルスケア」(セシル・G・ヘルマン,2018,p82-86)の実践は、今後の私たちが 救うひとつの手段であることは間違いない。

【参考文献】

合同会社イレスカムイ コンディショニングスタジオ ヨガセラ <https://yoga-thera.com/>
(2022,12,26 閲覧)

厚生労働省 『「統合医療」に関わる 情報発信等推進事業』

<https://www.ejim.ncgg.go.jp/public/index.html> (2022,12,26 閲覧) セシル・G・ヘルマン・訳 辻内琢也・牛山美穂・鈴木克己・濱雄亮(2018).ヘルマン医療人類学“文化・健康・病”第4章 ケアと治療 株式会社金剛出版